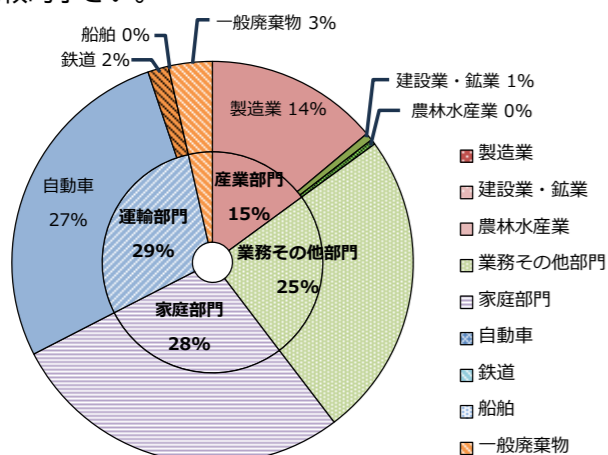


## <気候変動を取り巻く状況>

- ・世界中でゼロカーボンに向けた動きの加速。
- ・深刻化する気候変動の影響。1.5℃上昇までに残されたリミットは約8年。
- ・企業の脱炭素経営は、ESG投資の潮流の中で企業価値向上に。
- ・政府による2050年カーボンニュートラル宣言、2030年度削減目標46%。
- ・ゼロカーボンに向けた国の制度・計画(温対法改正、エネルギー基本計画)。
- ・京都府地球温暖化対策推進計画が令和5年3月に改定。
- ・地域からのゼロカーボンへの期待。国による支援メニューの強化。

## <精華町の特徴・ポテンシャル>

- 精華町のCO<sub>2</sub>排出量の特徴 ー自治体排出量カルテ
- ・精華町のCO<sub>2</sub>排出量は、137千t-CO<sub>2</sub>で、内訳は産業部門(15%)、業務その他部門(25%)、家庭部門28%、運輸部門(29%)、廃棄物分野(一般廃棄物)(4%) ※令和2年度(2020年度)
- ・運輸部門、家庭部門、業務その他部門の排出量で大半を占め、産業部門からの排出は比較的小さい。



## ○精華町の再エネ導入実績量(年間発電量)ーREPOS

太陽光発電: 20,491MWh/年  
 ※太陽光発電以外の再エネ導入は形状なし

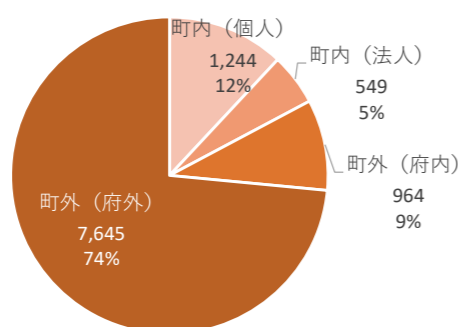
## ○精華町の再エネポテンシャル ーREPOS

・最大限の再エネ導入ができた場合の電力自給率は約148%と高いが、実際に導入可能な量は大幅に少ない。  
 (再エネ導入ポテンシャル(発電)/町域の電力使用量で算出(R3))

太陽光発電: 250,871MWh/年  
 建物系(戸建住宅等、集合住宅、工場・倉庫、その他建物、鉄道駅、官公庁、病院、学校): 159,342MWh/年  
 うち、公共施設: 1,995MWh/年  
 土地系(最終処分場、耕地、荒廃農地、ため池): 91,529 MWh/年  
 太陽熱・地中熱: 1,657,678 GJ/年

## ○FIT設置者の状況 ーREPOS

・太陽光発電(FIT)設置者別容量(kW)では、府外の設置者の割合が74%と高く、町内の設置者は17%にとどまる  
 ※個人は町内外の区別がないが、多くは町内と想定されるため町内と示している。



## <精華町の特徴>

- 環境: 木津川やため池・田畑など、水と緑豊かな水辺空間をはじめ、緩やかな丘陵地の樹林などの自然環境で形成。
- 都市・経済: 関西文化学術研究都市の中心都市としてまちづくり、先取的な地域として社会実験等の積極受入。
  - ・市街地: 既存集落と農地が広がる地区。
  - ・学研地域: 学研都市として整備された開発住宅地区や商業地区と多様。企業研究所や製造設備が立地、近年はデータセンター増加。

## <本町の地球温暖化対策に関連する課題>

- 【産業部門】
  - ・学研地区内には大小の工場施設があり、一部の大型施設では太陽光パネルが設置されているが、他の中小事業者等では導入が進んでいない。
    - 建屋や駐車場への太陽光の設置、自家(町内)消費の促進が効果的
  - ・農業のCO<sub>2</sub>排出量は小さいが耕作放棄地もあり、対策が必要。
    - 営農型太陽光発電等、高収入・脱炭素を両立できる農業の推進を図る
- 【民生(家庭)部門】
  - ・学研都市で広く開発が進み、住宅土地利用は1990年の11%から24%へと増加。敷地も比較的広く、各戸のCO<sub>2</sub>排出量は大きいと見込まれる。
    - 新耐震以降の住宅が多く、省エネ改修や太陽光設置の効果が大きい
  - ・人口は減少傾向にあり、定住人口の増加に向け街の魅力向上が重要
    - 脱炭素とあわせ、まちの魅力向上に取り組む必要がある

- 【民生(業務)部門】
  - ・民生(業務)部門全体で34千t-CO<sub>2</sub>の排出のうち、データセンターを含む3件の大規模施設が部門全体の約4割を排出。データセンターの建設は今後も続く見込み。
    - 多量排出事業者へのRE100等再エネ100%調達の義務化等を検討。同時に中小事業者を含め、建屋や駐車場等の太陽光発電の積極的な設置と自家(町内)消費やPPA利用を促進する必要がある。

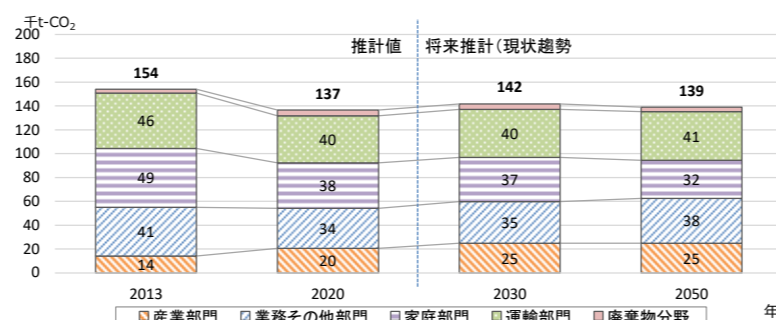
- 【運輸部門】
  - ・自動車利用中心の都市構造で、移動によるCO<sub>2</sub>排出量が多い。
  - ・自動車保有台数も年々増加、2016年には2万台超。一方、高齢化の進展により、将来的には交通弱者の増加も見込まれる。
  - ・公共交通等の利便性向上を狙う「スマートけいはんなプロジェクト」等を推進中
    - 公用車やコミュニティバス等でのEV導入など、交通弱者対策と脱炭素化の同時解決を図る。さらにEVの電源利用等、災害対策も考慮

- 【廃棄物部門】
  - ・ごみ総排出量はH20以降横ばいだが、プラ等の資源化率は減少傾向。
  - ・そのため、廃棄物部門のCO<sub>2</sub>排出量は増加。
    - ごみの減量化・資源化に向け住民・事業者・町の連携取組強化。

- 【全体】
  - ・敷地利用の状況や景観保全等の観点からもメガソーラー等の余地は小さい。まずは、既存の敷地・建物への再エネ導入を進めることが必要

## (現状推移でのCO<sub>2</sub>発生量推移(現時点での概算))

・2020]137千t-CO<sub>2</sub>⇒2030]142千t-CO<sub>2</sub>⇒2050]139千t-CO<sub>2</sub>  
 ⇒2013年以降、エネルギー多消費型事業所が増加、今後増加することが見込まれるため相当な省エネ取組・再エネ導入が必要



## <計画の目標>

- ・2050年ネットゼロ導入に向け、着実な歩みを進める
- ・SDGsの考え方を踏まえ、脱炭素の取組により、地域の活性化を図る
- ・文化学術研究都市の地域特性を生かし、高度技術の活用と、市民・事業者の連携で脱炭素を推進

## <部門・分野別の方向性>

- 【産業(製造業等)・民生(業務)部門】
  - ・公共施設について積極的に省エネ改修や再エネ導入を図り、町内の脱炭素化を先導
  - ・事業者にはZEB等の導入や省エネ・再エネ導入等を進める
    - ① 大企業・多量排出事業者は、各社の自主的な取組と情報公開を促進
    - ② 中小企業等は、個別に事業者支援を推進。また町全体の脱炭素の機運醸成を進める
- 【産業(農業)部門】
  - ・地域の農業の継続・発展に寄与する再エネの導入を検討
- 【民生(家庭)部門】
  - ・脱炭素に資する生活スタイルの普及促進
  - ・新築や築浅住宅が多い学研都市の住宅地をメインに、省エネ改修や再エネ導入、ZEH化を推進
- 【運輸部門】
  - ・EVの普及促進。町の率先導入
  - ・「スマートけいはんなプロジェクト」を継続発展。公共交通の脱炭素化と高齢化・交通弱者対策推進
- 【廃棄物部門】
  - ・プラスチックの削減・資源化推進。サーキュラーエコノミーを視野に入れた事業活動の普及促進
- 【地域全体での取組】
  - ・大規模な再エネ導入は難しいことから、事業者建屋屋根、駐車場、住宅、農地、ため池などあらゆるスペースの有効活用により、再エネ導入を推進
  - ・地域産の再エネを地域で活用する主体について、地域電力会社等を含めて検討

## <精華町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の削減目標・施策体系>

- 削減目標
  - ・2030年46%減(2013年比)、2050年実質ゼロを目指しつつも、エネルギー多消費型事業所の増加を考慮した現実的な削減目標設定を検討

- 施策体系
  - ・学研都市の中心都市として、先進的な取組も積極的に導入しつつ、目標達成に向けて取り組む。
  - ・府とも連携しながら、学研都市のまちづくりの一環として脱炭素の取組を推進。

**施策の柱1 徹底した省エネルギーの推進**  
 公共施設での率先取組の推進/住宅の改修・ZEH化促進/事業者のZEB・省エネ促進 等

**施策の柱2 市民・事業者・行政が一体となった再生可能エネルギーの導入**  
 公共施設での率先導入の推進/学研地区での太陽光導入促進/住宅PPA導入促進  
 再エネ促進区域の設定/エネルギーの地産地消を進めるための地域電力会社設立の研究 等

**施策の柱3 公共交通の利便性向上と脱炭素化の推進**  
 公用車のEV化等推進/公共交通のEV化等推進/交通弱者対策の推進/学研地区での公共交通利用による通勤推進/精華町版MaaSの検討・推進 等

**施策の柱4 資源循環の推進**  
 プラスチックの発生抑制・資源循環の推進/資源循環型の売り方・買い方の促進 等

**施策の柱5 学研都市にふさわしい脱炭素行動チャレンジの場づくり**  
 住民・市民団体との連携/事業者勉強会の開催/国・府施策の住民・事業者への紹介脱炭素に繋がる社会実験等の積極受入 等

## <計画基本情報>

計画期間: 2050年度を視野に入れ、中間目標期間として2024年度~2030年度を計画期間とする。  
 計画対象: (対象地域) 精華町全域  
 (対象の温室効果ガス) CO<sub>2</sub>を主に温対法に定める3種類のガス  
 進行管理: 指標を設け、毎年、取組点検・評価を実施。PDCAによる進行管理体制を導入。

<その他> ・計画策定の基礎調査として住民・事業者のそれぞれにアンケートを実施。